古文における文法指導について

西本孝義

はじめに

古文において文法は生徒の苦手とするところである。しかし、教室における古文の授業では、文法指導の占める割合は多いように思う。それは一面ではやむをえないこととは思うが、生徒の古典享受を妨げる原因となっている。そこで、古典を享受するために、文法指導はどうあればよいのかを、これまでの授業を振り返って考えてみたい。

一　古文における文法（指導）の位置づけ

高等学校学習指導要領　第二章第I節国語I　言語事項　イに「文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること」の解説の中に「『文語のきまり』には文語文法のほか、歴史的仮名遣いなども含まれる。特に現代語と異なる古文特有のきまりに重点を置いて、仮名遣いや活用の違い、主な助詞、助動詞等の意味・用法、係り結び、敬語法の大体などについて学習させ、読解・鑑賞に役立たせるように指導する」とあり、第5節古典3　内容に「古典の学習は言語面での抵抗が大きいので、辞書や文法の解説などを十分に活用し、語句の意味や用法を正確に理解することが読解、鑑賞の出発点であるとともに、言語感覚を養う基本でもある。」とある。これらによると当然のことながら文法は古典の読解、鑑賞のための役割を担う基礎的事項の一つであり、その指導は、読解、鑑賞を深めるものでなければならない。

二　文法指導の目的

古文の読解の面から考えると、文法指導は正確な解釈（口語訳）をすることを目的にして、一の項で示したように、より深い鑑賞に結びつくことが目的である。そのためには、用言、助動詞、助詞などを体系的に整理して指導していく方法が学習効果をあげるのに役立つようである。つまり、鑑賞に至るための補助の働き

をするものであり、そうした観点で指導していくものである。

三　昨年度（'88年度）までの文法指導

一年生で、助詞を除く、用言、助動詞の指導を終えた。二、三年生では作品に即して反復練習を行った。文法指導の中心となる一年生の年間計画の流れを以下に示すと、

① 一学期……五十音図（ア・ヤ・ワ行を中心に）の指導⇩歴史的仮名遣いの読み⇩用言の指導。他に、係り結びの指導。

② 二学期……助動詞の指導

○ '87年度までは、時の助動詞を中心に、頻出するものを加えて十一語だけ取りあげて指導した。〔き・けり・つ・ぬ・たり・り・む・らむ・けむ・ず・なり〕

○ '88年度は「べらなり」などの特殊なものは除いて助動詞一覧表を配布して一括指導をした。

③ 三学期……授業で扱う作品に即して用言・助動詞の反復練習。助詞の一部（格助詞・副助詞の一部）の指導。

この段階でしっかりと自分のものになるように指導することが大切である。

四　指導の実際

ア　一年生の場合

(1) '87年度までは、古典入門期が過ぎた四月下旬に、二〜三時間をさいて、文法テキストに従って、動詞全般の説明を行った。小テストを実施しながら定着をはかった。

授業では、扱っている教材を単語に分け－分かち書きの形式－それをプリントにしたものを配布して生徒が動詞を指摘しやすいようにした。

少し慣れてくると、活用の種類の活用表を空欄にしたプリントを配布して各自でまとめさせるようにした。

(2) '88年度は、用言のまとめプリント（資料1〜4）を配布し、生徒各自でまとめができるようにした。

(3) 助動詞については、'87年度までは十一単語にしぼって指導したが、'88年度は、助動詞一覧表を配布して、四〜五時間で一括指導し、細かい説明は、資料5の"一口メモ"を配布して補った。

イ　二年生の場合

(1) '89年度は授業は二年生だけであったので、助動詞は、アの(3)の一覧表を配布して、再度確認させ、覚えさせるようにした。また、助動詞を覚えさせる手順・方法を示したプリントや、まとめのプリントを配布した。（資料6・7）

(2) 敬語については、資料8・9を二学期初めに配布して、生徒各自でまとめができるようにした。一学期には敬語のしくみは説明している。

(3) 助詞については、本年度は体系的に教えていない。格助詞・接続助詞・副助詞の一部と係助詞を扱っただけであった。

以上をまとめてみると、

① 用言・助動詞を体系的に一括説明、② 授業（反復練習）、③ 各自でプリントでまとめをする。という形をとってきた。

五 アンケートについて

生徒の文法修得の実態や文法に対する意識を知るために、資料10・11のアンケートを、'89年9月に実施した。その結果は、資料11・12に示している。対象学年は二年生、A組（四五名）、H組（四四名）の二クラスで実施した。

この結果では、用言や敬語についてはまずまず理解しているようである。助動詞については、いくつかの意味を持っているものの意味の決定が困難な生徒がいるが、古文学習の量的不足によるものであろう。また、覚えている割合が低いようだが、「たし」「むず」などテキストの中にあまり出てこないものについて忘れてしまっているので、このような結果になったようだ。古文の文法指導の意義については半数の生徒が認めている。こうした生徒の実態に立って、古文への興味をかきたてるための授業はどうあればよいのかが問われるようになる。その一つの試みとして、今年度（'89年度）に行った取り組みを報告したい。

六 今年度の取り組み

(1) 時期 '89・二学期 九月～十月実施

(2) 対象クラス 二年A組（四五名）・H組（四四名）、共に文科系クラス。

(3) 教材 『大鏡』（『精選古文』数研出版社）

① 「院にならせ給ひて」（三条天皇）

② 「佐理大弐、世の手書きの上手」（実頼）

③ 「この粟田殿の御男君だちぞ」（道兼）

(4) 授業の流れ

(a) 読み (b) 語釈・文法 (c) 口語訳 (d) 鑑賞（主題の把握など）

(5) 授業の留意点

① 「院にならせ給ひて」

（ア）時間数 三時間

（イ）「き」「けり」の相違に気づかせる。

（ウ）敬語（敬意の対象）を指摘させる。

（エ）同格の「の」を指摘させる。

（オ）係り結びを指摘させ、何が強調されているかを考えさせる。―展開の中心―

（カ）三条天皇と道長の関係を知らせる。

（キ）三条天皇（院）の目の見えない理由を本文補遺のプリントを配布して知らせる。

② 「佐理大弐、世の手書きの上手」

（ア）時間数 三時間

（イ）敬語を指摘させる。

（ウ）断定の助動詞「なり」を指摘させる。

（エ）三跡（三蹟）の一人、佐理の書の達人ぶりを示すエ

ピソードを知る。

③「この粟田殿の御男君だちぞ」

（ア）時間数　五時間

（イ）敬語を指摘させる。

（ウ）「き」の用法に習熟させる。

（エ）副助詞「だに・さへ」の用法を知らせる。

（オ）終助詞「よ・かな」の用法を知らせる。

（カ）係り結びを指摘させる。

以上を留意して授業を行った。

(6) 授業の実際

Ⅰ　「院にならせ給ひて」の場合

（ア）口語訳（生徒に指名）をさせ、その中で、係り結び・敬語を確認させた。

（イ）人物関係を本文に掲載されている系図で確認させた。

（ウ）過去の助動詞「き」「けり」を抜き出させ、本文一行目には「き」が、二行目以下には「けり」が用いられていることを確認させ、二行目以下の場面は、三条院・道長・一品宮の登場する場面なので、話し手世継が直接見ることができないから、間接経験を表す「けり」が用いられていることを確認させた。

（エ）係り結びを指摘させ、強調表現であることから、どのような心情が強調されているかを考えさせた。

①御目を御覧ぜざりしこそ、いといみじかりしか。（⇩話し手の三条院に対する強い同情）

②「あゆ（一品宮）よ、など櫛は悪しくさしたるぞ。」とこそ仰せられけれ。（⇩三条院の目が見えることに対する話し手の驚きの気持ち）

③「かく美しうおはする御髪をえ見ぬこそ、心うくくちをしけれ。」（⇩三条院が一品宮（娘）の美しい髪を見ることができない無念さ）

④そらごとのやうにぞおはしましける。（⇩外見からは、目が澄んでいるので三条院の目が見えないことが信じられないという驚き。）

⑤　ほろほろと泣かせ給ひけるこそあはれに侍れ。（⇩泣いている三条院の心中を思いやっての話し手の強い同情心）

⑥　いかなる折にか―は、結びの省略（ありけむ）の例であるが、心情との結びつきがないので取りあげなかった。

（オ）連体形止めの表現について

①御まなこなどもいときよらかにおはしましける。

②「御廉の編緒の見ゆる。」

③御乳母たちは笑ひ申させ給ひける。

右の①③の本文表現「ける」は、余韻余情を表す連体形止めであることを確認させ、詠嘆の口語訳をさせた。②の「見ゆる」は動詞の連体形止めであり、同じく詠嘆表現であることを確認させた。

（カ）（エ）（オ）の表現についてのまとめ

『大鏡』は、大宅世継、夏山繁樹を中心とした対話の形

式をとっているので、(エ) の係り結びの多用　(オ) 破格とも言える連体形止めの表現は〝話し口調〟であることを示すため表現上の工夫であると思われる。したがって例えば、地の文の、世継に関わる以上のような表現は、ある感慨をこめて語られる「〜デシタワイ」という老人の話しことばに近い表現であるというとらえ方をした。

また、「係り結び」を取りあげ、それを通して心情をとらえようとしたのは、「教育の場でも、係り結びの形態（結びがどれかなど）を指摘し、強調の意と呼んで終わる、というのではなく、強調されている事柄がどういうものなのかを確かめ、それを強調することがどのような心理・心情の現れであるのかを考えることが肝要である。文法を活用した解釈とは、そのような姿勢での読みから生まれる。」(『国文法講座』3　明治書院）との考え方に立ってのささやかな試みである。以上のように「文法を活用した解釈」を試みながら、この文章の呼吸をつかませようと試みた。

（キ）敬語について

『大鏡』は敬語の学習をするのに最も適切な素材である。本文には三種の敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語）がすべて出ており、また二方面の敬語（謙譲語＋尊敬語）も出ている。今回は特に後者を取りあげて、口語訳の仕方と敬意の対象を確認させた。

①（三条院は）この宮をことのほかにかなしうし奉らせ給ひて、御髪のいとをかしげにおはしますを探り申させ給ひて、

②（宮が）渡らせ給ひたるたびには、（三条院は）さるべき物を必ず奉らせ給ふ。

③（入道殿が）興じ申させ給ひければ

④御乳母たちは笑ひ申させ給ひける。

①〜④の例はすべて、謙譲語＋二重尊敬の形になっている。

○　敬意の対象のとらえ方は、

1　謙譲語、尊敬語－それぞれ別々にとらえる。

2　謙譲語は行為の受け手が、尊敬語は、動作主（主語）が対象になることを確認してからとらえさせた。

このシステムが整理できていると敬語は生徒にとって困難なものとはならないと考えている。

Ⅱ　「佐理大弐、世の手書きの上手」の場合

（ア）本文では主として敬語のはたらきを確認させた。

（イ）本文の流れ

a　悪天候で出航できない佐理

b　佐理の夢に三島の神（伊予の国大三島に祀られている大山祇神社の祭神）が現れ、社の額を書かせたい旨を話す。

c　佐理、社の額を書く。

三跡（蹟）の一人、藤原佐理の能筆家であることを示す逸話である。

（ウ）aでは佐理が中心であるので、佐理へ敬意が示され

ている。

①すこし（天候が）なほりて出でんとし給へば、　（尊⇩佐理）

②いとあやしくおぼして　（尊⇩佐理）

③もの問ひ給へば　（尊⇩佐理）

三例とも動作主（主語）は佐理、したがって敬意の対象は佐理である。

（エ）bでは夢の中とは言え、「いみじうけだかきさましたる男」＝三島の神が登場したため、佐理との関わりの中で敬語が使われている。

①ここには経給ふは　（尊⇩佐理）

②おのれがし侍ることなり　（丁⇩佐理）

③わろく侍れば　（丁⇩佐理）

④われに書かせ奉らむ　（謙⇩佐理）

⑤とどめ奉りたるなり　（謙⇩佐理）

この場面で神が佐理に敬意を表しているのは、話し手（世継）が、参議という高い位にある佐理に、神のことばとは言え、敬意を抜きにした表現をとりえない意識を持っているからであろう。このことは、自尊敬語の発生の仕組みに準ずるものと考えられる。また、ここでの謙譲語は、神との関係の中で神の行為の受け手である佐理を敬うものである。したがって、この場面は、謙譲語の用法、行為者と、その行為の受け手の両者の関係の中で受け手を敬う仕組みを知るには、かっこうの素材である。

（オ）cでは、佐理一人になるので、敬意の対象は佐理が中心になっている。

①伊予へ渡り給ふに　（尊⇩佐理）

②神の御前にて書き給ふ。　（尊⇩佐理）

③飛ぶがごとくまうで着き給ひぬ。　（a…謙⇩神）（b…尊⇩佐理）

以上のように敬語を取りあげてきたが、bの場面、cの③の例で、特に、謙譲語のはたらき、たとえ相手が神であったとしても、行為の受け手が敬われるという仕組みを知りえたのではないかと思うが、先のアンケートの結果では、まだ十分とは言えない。

Ⅲ　「この粟田殿の御男君だちぞ」の場合

（ア）係り結びを指摘させ、そこに表れている心情を考えさせた。

①幼き人はさのみこそは（あらめ）

（幼い子供は本来やんちゃなものであるという認識の確認）

②いとあさましうまさなうあしくぞおはせし。（福足君が並外れたやんちゃな子供であることを強調して話し手の批判意識を示す）

③御手づからいみじう舞はせ給ひたりしこそ……その日の興もことの外にまさりたりけれ。（中関白殿の機転のきいた対応によって、その場の感興もわき、うまくその場を治めた中関白を賛える気持ち）

④よその人だにこそすずろに感じたてまつりけれ。（中関白殿を賛える人々の気持ち）

⑤祈禱をさへして、教へきこえさする。（添加の副助詞「さへ」を用いて、福足君のやんちゃぶりの並々でないことを示している）

以上のように、中関白殿と福足君とを対照的に描くことによって、中関白殿が「たましひ」ある人物、機転のきく人物であることを際立たせている。と同時に、スケールの大きな、すばらしい人物でもあるという点をつかませた。

おわりに

本稿は、昨年度（'89年度）に行われた第三十回広島大学教育学部国語教育学会の研究協議会に提案したものをまとめたものである。文法指導がテーマであったが、特に、これといった工夫はしていないが、これまでの文法指導を振り返り、文法事項としては、主として、係り結びを中心にして、『大鏡』本文の内容に迫ってみようとした。生徒たちは、ある程度の理解はしてくれたことと思うが、アンケート結果を見ると、それが古典により親しみ、享受することにつながっていったとは言い難い。今後は、三ケ年を見通した上で教材の精選を考えながら、文法と教材との有機的な関わりをもたせて、鑑賞をより深めていく方策を求めて行きたいと思っている。

（広島市立美鈴ケ丘高等学校教諭）

一年 古典 ― 動詞のまとめ ― 一年 組 番 名前

㊀ ア行・ヤ行・ワ行を外して書け。ただし、ワ行はカタカナで書け。

ア行	ヤ行	ワ行					
あ	や	わ					
い		い					
う	ゆ	う					
え	え	え					
お	よ	を					

㊁ 動詞は、事物の動作・作用・存在を表す。

㊂ 動詞・形容詞・形容動詞を用言といい、体言は用言とにいう。

㊃ 語形の変化するこまる活用と、変化しない活用は同じ「イ」で終わる。

㊄ 動詞の活用の種類は 九 種類である。

四段	上一段	上二段	下一段	下二段
ナ変	ラ変	カ変	サ変	下二段

㊅ 動詞の変化の パターン（型）を 変種 に記憶すること。⇐ 活用表参照

㊆ 次のものは記憶しておくこと。（カ変は活用表を記憶すること）

㊇ 下一段 … 蹴る 一語。

㊈ 下二段 … ア行 得 ハ行 の二語。

ア行 ヤ行 ワ行 の三語。

（9語）

ア行 ヤ行 ワ行 言語と語尾の三語のもの。

言ハ	言ヤ	言ワ	言ヤ	言ワ
得ハ	経ハ	変ハ	言ハ	言ハ

㊉ 上一段 … ア行 着る 見る ヤ行 射る 居る ワ行 用る 干る 射る 居る 用る 干る

（ア行 着る 見る 射る 居る 用る 干る）

（ヤ行 射る 居る）

（ワ行 用る 干る）

㊉ 上二段 … ヤ行 ばかり 過ぎる 越す 延ばす 延ばす 延ばす 延ばす

ア行 ばかり 過ぎる 越す 延ばす 延ばす 延ばす 延ばす

ハ行 ばかり 過ぎる 越す 延ばす 延ばす 延ばす 延ばす

ヤ行 ばかり の四語

㊉ カ変 … 来 来る の一語

㊉ サ変 … する 愛する の二語

㊉ ナ変 … 死ぬ 往ぬ の二語

㊉ ラ変 … あり 居り います の四語

㊉ 上二段 … ヤ行 ばかり 過ぎる 越す 延ばす 延ばす 延ばす 延ばす

ハ行 ばかり 過ぎる 越す 延ばす 延ばす 延ばす 延ばす

ヤ行 ばかり の三語

㊉ 動詞の活用種類の見分け方 ― 「ず」を付ける ―

ア段 ―――→ 四段

イ段 ―――→ 上二段

エ段 ―――→ 下二段

㊉ 動詞の活用種類の見分け方 ― 「ず」を付ける ―

ア段 ―――→ 四段

イ段 ―――→ 上二段

エ段 ―――→ 下二段

㊉ 未然形

(1) 未然形 ― 「ず」を付ける。

(2) 活用語尾 ― 「ず」を付ける。

(3) 「ず」を付ける。

動詞のまとめ 二

(1) 動詞を活用させる時、

未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ず（む）	たり（て・ける）	。	時（事）	ど（ども）	。

右のことばを付けて活用させます。慣れるまで繰り返し練習しよう。

(2) 活用の種類（…段活用）がわかれば、パターンにはめて活用させる。

(3) 動詞について尋ねられた時の答え方。

例 (1) をもーろく言ふ時 ヤ行 四段活用

(1) ○行・○段活用 と答える。

(2) ○行○段活用 ○形

ヤ行 四段活用 連体形

(1)(2)の形で答えること。

(4) 語幹・語尾の区別のないもの —— 語幹に必ず（ ）をつける。

例 見る

（見）	未用
み	終
み	体
みる	已
みる	命
みれ	
みよ	

。上一段活用・下一段活用・下二段活用（得・経・寝）

ア行・カ行・ナ行

(5) パターン

	未然	連用	終止	連体	已然	命令
四段活用	ア	イ	ウ	ウ	エ	エ
下一段活用	ケ	ケ	ケる	ケる	ケれ	ケよ
下二段活用	エ	エ	ウ	ウる	ウれ	エよ
上一段活用	イ	イ	イる	イる	イれ	イよ
上二段活用	イ	イ	ウ	ウる	ウれ	イよ

（活）ア イ ウ エ オ

⇐ ア段・イ段・ウ段・エ段・オ段

形容詞をまとめる

28

一 形容詞

(1) 形容詞は事物の状態を表す。

(2) 言い切りの形（終止形）は し。

(3) 活用の種類（一 種類）

ク活用

ク	カ	カ	い	い	け	
ク	カ	カ	い	い	ける	
ク	カ	カ	い	い	ケレ	
ク	カ	カ	い	い	ケレ	
ク	カ	カ	い	い	ケレ	
ク	カ	カ	い	い	ケレ	

シク活用

シク	シカ	シカ	しい	しい	しける	
シク	シカ	シカ	しい	しい	しける	
シク	シカ	シカ	しい	しい	しける	
シク	シカ	シカ	しい	しい	しける	
シク	シカ	シカ	しい	しい	しける	
シク	シカ	シカ	しい	しい	しける	

ナリ活用

ナリ	なら	なり	なり	なる	なれ

タリ活用

タリ	たら	たり	たり	たる	たれ

(4) 活用の種類の見分け方

形容詞 ＋ なる → ク活用 ＝ シク活用

「同じ」――連体形に注意 → 同じ ＝ ナリ活用 ＝ タリ活用 の三形がある。

(5) 「同じ」――連体形に注意

(6) 接続の問題

1. 終止形 ＋ 助詞 → 接続語となる。（即ち、これは。や。〈アア、然ナリケリ〉）

2. 助詞 の ＋ 体言 → 連体修飾語となる。（八重の山路。〈ウグイスノ〉）

3. 連体形 ＋ 体言 → 連体修飾語となる。（即ち、ウグイスの声。）

4. 連用形 ＋ 動詞 → 連用修飾語となる。（即ち、ここに。）

5. 形容詞 ＋ 動詞 → 連用修飾語となる。（即ち、ここに。）

6. 連体形 ＋ 体言 → 連体修飾語となる。（即ち、ウグイスの声。）

(7) 品詞の見分け方

1. 連体形 ＋ 体言 → 連体詞（ある・いはの・ひとの・ひとつの）

2. 連用形 ＋ 動詞 → 連用詞（ことに・ことに・ことに）

3. 終止形 ＋ 体言 → 形容詞（ひとつの・ひとつの）

(8) 文法問題の形式の問題

ク活用

ク	カ	カ	い	い	ける	
ク	カ	カ	い	い	ける	

シク活用

シク	シカ	シカ	しい	しい	しける	
シク	シカ	シカ	しい	しい	しける	

形容動詞 まとめ

88

(1) 事物の 性質・状態 を表す。

(2) 言い切りの形（終止形）は、なり たり である。

(3) 活用の種類は、二 種類である。

なり 活用……

なら	なり	なり	なる	なれ	なれ
に					

……(例) 愚かなり・あはれなり

たり 活用……

たら	たり	たり	たる	たれ	たれ
と					

……(例) 荒涼たり・堂々たり

（漢文訓読体・和漢混交文体にみられる）

(4) 形用動詞の連用形 に・と は、(a) 連用修飾法や連用中止法として用いられる。

(例)
- (a)（ホタルが）ほのかにうち光りて行くもをかし。
- 山吹の清げに、藤のおぼつかなきさましたる、
- 北には、青山峨々として、松吹く風索々たり。

(5) 形容動詞・連用形の「に」と、副詞の「に」の判別。

△終止形（なり）に直してみる。

例
- 明らかに → 明らかなり ↑自然である場合（形容動詞）
- ただちに → ただちなり ↑不自然である場合（副詞）

(6)
- a 形容動詞「なり」
- b 体言＋「なり」

の判別

「いと」（副詞）を付けてみる。

例
- a 静かなり ↓いと・静かなり ↑自然である場合（形容動詞）
- b 静けさなり ↓いと・静けさなり ↑不自然である場合（体言＋なり）

(7) 接続助詞 の用法

1. 接尾語 さ をともない名詞となる。 例 静かさ・豊かさ
2. 助詞 の をともない連体修飾語となる。 例 おぼろげの紙（今ウスレタ紙）をこのこと（バカナコト）
3. 感動 を表す。 例 あな・珍らか（アア・珍ラシイコトヨ）
4. 単独で 名詞 になる。 例 きよらを尽して（美ヲツクシテ）

(8) 音便形

撥 音便 静かなる＋なり ↓静かな(ん)・なり

資料5

―ら・り・る・れ―

① 「ら」

(イ) 未然形に接続

(ロ) 未然形

	未然形	連用形
古文	・ら(る)	・り
古文	・ら(る)	・り
古文	・ら(る)	・り
古文	・ら(る)	・り

② 「り」

(イ) 連用形に接続

(ロ) 「り」……接続する動詞の活用形

(ハ) 「り」……文語動詞「り」の連用形

③ 「り」の動詞(……ラ行変格活動)

今日の学校で先生が言ったことを、家へ帰ってよく考えて、明日までに答えを出すこと。

―ら・り・る・れ―

① 「れ」

(イ) 未然形に接続

(ロ) 未然形

	未然形	連用形
古文	・れ(る)	・れ
古文	・れ(る)	・れ
古文	・れ(る)	・れ
古文	・れ(る)	・れ

② 「れ」の動詞

(イ) 「れ」……接続する動詞の活用形

(ロ) 「れ」……文語動詞「れ」の連用形

(ハ) 連用形

③ 「れ」の動詞(……ラ行変格活動)

先生の話を聞いて、今日の学校の授業を思い出した。

―る・らる―

① 「る」

(イ) 未然形

(ロ) 「る」……文語動詞「る」の連用形

(ハ) 「る」……文語動詞「る」の連体形

(ニ) 「る」……文語動詞「る」の已然形

(ホ) 「る」……文語動詞「る」の命令形

② 「らる」

(イ) 未然形

(ロ) 「らる」……文語動詞「らる」の連用形

(ハ) 「らる」……文語動詞「らる」の連体形

(ニ) 「らる」……文語動詞「らる」の已然形

(ホ) 「らる」……文語動詞「らる」の命令形

―す・さす・しむ―

① 「す」

(イ) 未然形

(ロ) 「す」……文語動詞「す」の連用形

(ハ) 「す」……文語動詞「す」の連体形

(ニ) 「す」……文語動詞「す」の已然形

(ホ) 「す」……文語動詞「す」の命令形

② 「さす」

(イ) 未然形

(ロ) 「さす」……文語動詞「さす」の連用形

(ハ) 「さす」……文語動詞「さす」の連体形

(ニ) 「さす」……文語動詞「さす」の已然形

(ホ) 「さす」……文語動詞「さす」の命令形

③ 「しむ」

(イ) 未然形

(ロ) 「しむ」……文語動詞「しむ」の連用形

(ハ) 「しむ」……文語動詞「しむ」の連体形

(ニ) 「しむ」……文語動詞「しむ」の已然形

(ホ) 「しむ」……文語動詞「しむ」の命令形

第6583号 (1年)

助動詞

一、活用の型による分類

(1) 下二段型 ……る らる す さす しむ つ

(2) ラ変型 ……けり (たり)(完了) めり (なり)(伝・推) り (音あり ○分りなれば・)

(3) 四段型 ……む(ん) けむ らむ

(4) 形容詞型 ……まほし たし べし まじ ごとし (○接続法○)

(5) 形容動詞型 ……(なり) (たり)(断定)

(6) 特殊型(無変化) ……じ らし

(7) 特殊型 ……ず まし さ

(8) ナ変型 ……ぬ ←――(ナ変には接続しない)

(9) サ変型 ……むず(んず)

二、職能(意味)による分類

(1) 受身・可能 自発・尊敬 ……る・らる

打だ刃 見ざ刃

- ○可能・自発 ＝命令形はない。
- ○可能 ＝打ち消しの語と用いられる場合が多い〈反語〉
- ○自発 ＝「思ふ・なむ」の心に関わる語につくのが普通〈嘆く・泣く・なるる・ぬる〉
- ※○受身 ＝無生物が主語になることは殆んどない。〈人間又は動物が主語〉
- ○迷惑の受身。(非情の受身)

外 但※硯に髪の入りてすずりたる。 ※スラング 受身

(2) 使役・尊敬 ……す・さす・しむ

打だ刃 見ざ刃

- ○単独で用いられる場合…使役
- ○しめ……サセル……使役 (即ち考えるもに敬語ませたまふ。)
- ○す・さす＋ル・ラル＋タマフ(給ふ) ……尊敬
- ○しむ＋オハスマス ……尊敬 ○ 謙譲だけ

(3) 打消 ……ず

(4) 希望 ……まほし・たし (鎌倉)

(5) 完了 ……つ・ぬ 〔なむ・てむ・つべし・ぬべし・てらむ・ぬらむ・なまし・てまし〕 (ヤトし、ケリ三〜) 強意(完了＋推量)

(6) 存続(完了) ……たり・り

(7) 過去 ……き・けり 〔けり＝ハッと気づいて驚く・詠嘆〕 ・歌で用いる「けり」……詠嘆〕 ↑↑ 仮・命令形 きけ ごけ

(8) 断定 ……なり・たり (漢語に)

(9) 比況 ……ごとし (ヤウニ ヤウニ)

(10) 推量 ……む (むず)

- 根拠 (反実性)
- ＋打消
- ＋過去
- ＋現在
- 意志性
- 主観性
- 客観性
- 婉曲性
- 仮定
- 勧誘
- 適当
- 可能性
- 禁止
- 命令
- 意思
- 推定
- らし
- まし
- じ
- けむ
- べらむ
- めり
- ……(＋打消) まじ

(1) まし 未だ……まし せば……まし ませば……まし 疑問語 (1) とどめむ ためらへ

めり＋見・あり (視覚) なり＋あり (聴覚)

(2年生) 1989年

組　番　氏名

助動詞

○ 助動詞を覚えるのに必要なこと

(1) 接続　(2) 意味(職能)　(3) 活用 である。

三、接続による分類

(1) 未然形に接続する助動詞(11単語)をすべて書け。

る	らる
さす	しむ
むず	むずる
まし	ましまし

(2) 連用形に接続する助動詞(9単語)

き	けり
ぬ	たり
たし	けむ

(3) 終止形に接続する助動詞(6単語)

らむ	べし
らし	まじ

「べらなり」は除く

めり
なり

(4) 体言、連体形に接続(3単語)

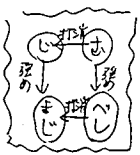
なり	たり

「ごとくなり」「やうなり」は除く

ごとし

(5) 四段活用の已然形(命令形)、サ変未然形(命令形)

り



四、用法

(1) む、らむ、けむ

○ 仮定・婉曲　現在または過去の伝聞・婉曲……連体形の時

(2) ラ変・形容詞・なり・めり

ある・あり ⇒ あ(無表記)・り

なる・めり ⇒ なん・めり ⇒ な・めり

ある・なり ⇒ あん・なり ⇒ あ・なり

なる・なり ⇒ なん・なり ⇒ な・なり

侍る・めり ⇒ 侍ん・めり ⇒ 侍・めり

侍る・なり ⇒ 侍ん・なり ⇒ 侍・なり

べかり・めり ⇒ べかん・めり ⇒ べか・めり(なり)

他に形(連体形)＋めり　なり

あこうし ⇒ あこうし　けこうし ⇒ けこうし

(3) ず＋は ⇒ 連用形＋は

上代十は ⇒ 形(連用形)十は ― 仮定条件を表す。

(4) ぬ・ねの判別

未然形＋ぬ ― 打消「ず」…連体

ね ― 「ず」― 已然

未然＋る ⇒ 「る」　已然(命令)形＋「る」⇒「り」…

(5) る・の判別

(6) なむの判別

(1) 未然＋なむ…終助・願(希・オ)

(2) 連用形＋なむ(強意＋推量＋主語の助詞)

(3) 体言・連体形・助詞＋なむ(係助詞)

(7) 上代(奈良時代)の助動詞(未然形接続)

ゆ・らゆ・ふ・す

連用形＋ぬ ― 完了「ぬ」終止

〃 ― 「ね」命令

連用形＋なり ― 形・連用 く ― 動・連用 に ― 打消・連用 ず ― なり(係助詞)

― なり＋なむ(助詞)

― なり

(24年) 1989年

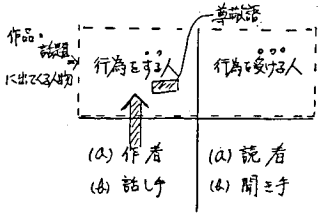
敬語（待遇表現）

(一) 種類 三種

(1) 尊敬語 (2) 謙譲語 (3) 丁寧語

(二) 用法と意味

(1) 尊敬語



(A) は 地の文（会話文以外の文）の時
(B) は 会話文の時

(イ) 誰の誰に対する敬意か。
(i) (地の文) 作者 ⟹ 行為をする人
(ii) (会話文) 話し手 ⟹ 行為をする人

(ロ) まとめ
尊敬語は、作者、または、話し手が、（行為をする人）動作主＝主語にあたる人を敬う。

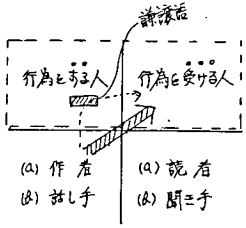
(ハ) 最高級の敬語動詞

おはします	普通の動詞 あり、をり、す、行く、来
思しめす	思ふ
聞こしめす	聞く
御覧ず	見る
大殿籠る	寝（ね）寝（ぬ）め

イ ラ ル ル	オ ス ル
オ ス ル	オ ス ル
オ ス ル	オ ス ル
オ ス ル	オ ス ル

(二) 二重敬語 〈す・さす・しむ＋尊敬語〉
せ／させ／しめ
（訳）オ……ナル……ナサル）
給ふ（尊敬の助動詞＋尊敬の補助動詞）
（ホ）尊敬の助動詞（会ム・使役）⇒ る・らる・す・さす・しむ。

(2) 謙譲語（受け手尊敬）



(A) は 地の文の時
(B) は 会話文の時

(イ) 誰の誰に対する敬意か。
(i) (地の文) 作者 ⟹ 行為を受ける人
(ii) (会話文) 話し手 ⟹ 行為を受ける人

(ロ) まとめ
謙譲語は、作者、または、話し手が、行為を受ける人を敬う。

(ハ) 注意すべき謙譲語
(i) 奏す・啓す
奏す（申す）＝天皇に
啓す（申す）＝皇后に
（奏上スル）申し上げる
(ii) 参る・まかる・詣つ・四段つ
参上スル＝まゐる・まうづ
退出スル＝まかる・まかづ
(iii) 給ふ
・四段…給ふ ― 尊敬語
（御格子参る。）
（格子を上ケル）
◎ 下二段 給ふ ― 謙譲語

a 活用

へ	へ	○	ふる	ふれ	○

(ホ) 補助動詞として用ひられた場合。
（訳）マス・デス・ゴザイマス。
● 思ふ・聞く・知る・見る＋給ふ（下二）の時に用ふる。
◎ 自己の動作につけて自己の動作を表す。
会話文（手紙文）の時にだけ表れる。
→会話文を特定しやすい。

資料10

文法学習について（アンケート）

二年（　）組（　）番（　　）

一　用言について

(1) 上一段・下一段・ナ変・ラ変・カ変・サ変の六種の動詞の活用表と活用する単語を覚えているか。

ア　すべて覚えている　イ　だいたい覚えている

ウ　ほとんど覚えていない　エ　覚えていない

(2) イと答えた人は何を覚えていないかを記せ。

(3) 四段・上二段・下二段の判別ができるか。

ア　はい　イ　いいえ

(4) 文章中で動詞を指摘できるか。

ア　指摘できる　イ　だいたい指摘できる　ウ　指摘できない

(5) 文章中で動詞を指摘する時の困難点があれば記せ。

(6) 形容詞・形容動詞の活用表を覚えているか。

ア　はい　イ　いいえ

(7) 形容詞の活用の種類（ク活用・シク活用）の判別はできるか。

ア　はい　イ　いいえ

(8) 文章中で形容詞・形容動詞を指摘できるか。

ア　指摘できる　イ　だいたい指摘できる　ウ　指摘できない

(9) 文章中で形容詞・形容動詞を指摘する時の困難点があれば記せ。

二　助動詞について

(1) 助動詞の接続・意味・活用表を覚えているか。

ア　覚えている　イ　だいたい覚えている

ウ　ほとんど覚えていない　エ　覚えていない

(2) イ・ウと答えた人は何を覚えていないかを記せ。

(3) 助動詞を学習する時の困難点があれば記せ。

三　係助詞について

(1) 係助詞を覚えているか。

ア　はい　イ　いいえ

(2) 文章中で係り結びを指摘できるか。

ア　指摘できる　イ　だいたい指摘できる　ウ　指摘できない

(3) イ・ウと答えた人は、どのような点が困難なのかを記せ。

四　敬語について

(1) 敬語のしくみは理解できるか。

ア　よく理解できる　イ　だいたい理解できる　ウ　理解できない

(2) 敬語動詞を覚えているか。

ア　覚えている　イ　だいたい覚えている　ウ　ほとんど覚えていない

(3) 「大鏡」で敬語を学習したが、その理解度。

ア　よく理解できた　イ　だいたい理解できる　ウ　理解できなかった

(4) 敬語を学習するうえで困難だと思う点を記せ。

(5) 古文における文法学習の意義について

ア　意義がある　イ　どちらともいえない　ウ　意義はない

理由（　　）

(6) これからの文法学習の中で、あなたが特に学びたいものは何か。

(7) 古典の授業に望むものを記せ。

(8) 古典について

ア 好き　イ どちらともいえない　ウ 嫌い

理由（

ウ	イ	ア
15	6	22

（Aクラスのみ）

○アンケート結果　対象　二年生（A組（四五名）　H組（四四名））　九月中旬実施

（数字は人数）

女

	(8) ウ	(8) イ	(8) ア	(7) イ	(7) ア	(6) イ	(6) ア	(5) ウ	(5) イ	(5) ア	(4) イ	(4) ア	(3) エ	(3) ウ	(3) イ	(3) ア	(1) ウ	(1) イ	(1) ア	二 クラス
A	3	39	3	3	40	12	32	1	32	12	19	26	3	15	24	3				
H	1	33	10	6	38	3	41	0	31	13	15	29	1	12	27	4				
計	4	72	13	9	78	15	73	1	63	25	34	55	4	27	51	7				

女

	(3) ウ	(3) イ	(3) ア	(2) ウ	(2) イ	(2) ア	(1) ウ	(1) イ	(1) ア	(2) ウ	(2) イ	(2) ア	(1) イ	(1) ア	(1) エ	(1) ウ	(1) イ	(1) ア	二 クラス
A	11	28	5	18	24	2	11	30	3	5	25	15	13	32	1	16	26	1	
H	2	36	6	7	35	2	6	32	6	4	17	23	6	38	2	13	26	3	
計	13	64	11	25	59	4	17	62	9	9	42	38	19	70	3	29	52	4	

△　△

一

(2) 上一段活用の動詞

	(5) ウ	(5) イ	(5) ア
	5	18	16
	2	18	25
	7	36	41

(5) ○仮定形の助動詞と紛れる。（主文「し」・「なり」など）

○単語に切れない。

○複合動詞を判別しにくい。

(9) ○形容詞ク活用已然形「けれ」

○形容動詞ナリ活用 連用形「なり」　は助動詞と紛れやすい。

○形容動詞と副詞の区別が困難な時がある。

○形容動詞ナリ活用、タリ活用の連用形、「に」「と」は、名詞と助詞と迷いやすい。

二

(2) ○助動詞の意味を忘れる。（活用は覚えている）

○まほし・たし・まし・うし

○命令形のあるものとないものをはっきり区別して覚えていない。

(3) ○一つの助動詞に意味が多いので、意味をはっきりと決められない。

○「べし」の意味。

○助動詞の数が多過ぎる。

○すべて覚えていても実際の場でうまく活用できない。

○「ぬ」などの同じ形を持つものの識別が難かしい。

三

(3) ○接続の「流れ」がわかりない。

○何を強調しているのかわからない。☆

四

(4) ○本動詞と補助動詞の区別。

○訳しかた（訳が日本語として変である）

○謙譲語がわかりにくい。　○敬意の対象が時々わからなくなる。

○敬語の種類・単語。

(5)

㋐
- 文法がわかればだいたいの内容がわかってくるから
- 文法ができないと意味を取り違えることがあるから
- 古文の初めの部分の意味がわかりやすくなるから

㋑
- 将来必要ないから
- 日常役わないから
- 古文を楽しむだけなら必要ないから

(16)

大学入試に役立つもの

- 助動詞（判別） 17
- 助詞 8
- 敬語 13
- よめるようになりたい（口語訳） 3
- より深く理解できるように学びたい 1
- 敬語（慣用句） 1
- 接続助詞 1
- 用語法 1
- 係り結び（訳し方） 1
- すべての基礎 3
- いろいろなものを試すだけ 1
- 「い」と「あ」、「え」と「ゑ」の使い分け 1
- 活用形の判別 1

(7)

- 登場人物そうなものをやってほしい（読解力をつけてほしい） 1
- わかりやすい授業 5
- 内容のおもしろい教材に取り組んでほしい 7
- もっと古典を楽しく好きになるような授業 9
- 基礎からわかりやすく説明してほしい 2
- 文法・文法のテストをしてほしい 3
- 個別指導をもっとやってほしい 1

- NHK「マンガで読む古典」のような楽しい授業 2
- 時代背景や当時の風俗を教えてほしい 3
- 板書をていねいにしてほしい 2
- あまりテストをしないでほしい 1
- 授業をゆっくり、テスト前に早く進まないでほしい 4
- 話をゆっくり言ってほしい 1
- 今のままでよい 9
- 特になし 32
- もっとさびしく（手抜きしっかりやってる）してほしい 3